

《屋外展示施設》

1 保護棟

遺跡中央の建物内には、発掘当時の竪穴住居跡ろしゅつてんじが露出展示されています。いずれも弥生時代の竪穴住居です。



2 復元住居

縄文・弥生・古墳の各時代の復元した竪穴住居があります。これらは実際に発掘された竪穴住居をモデルにして復元されており、住居の中に入って見学できます。

3 住居跡表示杭

住居跡りんかくの輪郭を杭で示し杭頭の色で時代を区別してあります。縄文時代は赤、弥生時代は茶色、古墳時代は白で表示しています。

《展示室》

縄文コーナー：石鏃せきそく（石製の矢の先端せんたん）や釣針・モリ、打製石斧など狩猟採集生活に必要な道具がみられます。

弥生コーナー：石包丁などの道具や、炭化米・粃圧痕のある土器など、稲作が始まっていることがわかります。また金属器が使われ始めます。

古墳コーナー：道具の素材として金属がさらに普及します。こしきや須恵器・かまどなど、新たな技術や知識が伝わってきます。

北側貝塚の標本：縄文時代中期の貝塚の地層をはぎ取ったものです。貝殻・土器片・石・土はすべて本物です。土の色の違いなども観察しましょう。

《アクセス》

市営地下鉄 「蒔田駅」：徒歩25分 （2番出口）

市営地下鉄「弘明寺駅」：市営バス219系統 「三殿台入口」下車
バス停から徒歩5分 （乗車時間約6分）

《施設案内》

開館時間：4～9月 9：00～17：00／10～3月 9：00～16：00

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

12月28日～1月4日（年末年始）

所在地：〒235-0021 横浜市磯子区岡村 4-11-22

TEL/FAX：045-761-4571／045-761-4603

E-mail：santonodai@yokohama-history.org



ホームページQR

202504-10,000

《国指定史跡》

さんとのだいいせき 三殿台遺跡



発掘当時の三殿台遺跡

昭和36（1961）年に発掘調査が行われ、60年以上がたった三殿台遺跡は、市民の財産であり憩いの場として親しんでいただいています。

4,500年前の縄文時代中期に人々が住み始めた、この三殿台遺跡はじょうもん やよい こぶん縄文・弥生・古墳の三時代にわたる遺跡です。270軒をこえる竪穴住居跡たてあなじゅうきょあとがみつかり、大岡川流域の原始・古代のムラの様子と当時の生活を知ることができる、たいへん貴重な遺跡です。昭和41（1966）年には国指定史跡として保護され、調査・研究が今も継続して市民ボランティアの皆さまとともに行われています。

縄文時代

三殿台遺跡に人々が住みはじめたのは縄文時代中期（約 4,500 年前）です。当時の遺跡周囲には森林が広がっており、動物や植物が多くみられました。また現在の大岡川沿いの奥まで海が入り込んでいました。縄文時代の人々はこうした自然環境の中で、狩猟・採集・漁労を中心とした生活をおくっていました。

周辺の斜面からは、捨てられた土器の破片や貝殻とともに動物の骨などが堆積した「貝塚」がみつかり、当時の生活を知る資料が発見されています。



縄文時代土器



縄文時代中期の貝塚標本



貝刃



骨角器



装飾品

弥生時代

弥生時代中期（約 2,000 年前）になると、三殿台遺跡に再びムラが営まれます。このころには稲作を中心とした暮らしに変わっていきます。また金属器を使うなどあらたな技術も広まってきます。

三殿台遺跡では弥生時代中～後期になると台地全体に多くの竪穴住居が作られ、大岡川流域の中心的なムラとなります。



弥生時代土器

周囲から水田跡はみつかりませんが、^{もみ} 籾の^{あっこん} 圧痕がみられる土器や^{たんかまい} 炭化米が出土しており、三殿台のムラの人々も米を生産していたことがわかります。



青銅器



磨製石器

古墳時代

古墳時代は、古墳時代前期（約 1,700 年前）と、古墳時代後期（約 1,400 年前）を中心にムラが営まれました。古墳時代になると、金属製の道具はより広く普及していきます。また縄文時代から続く素焼きの土器（土師器）のほか、「須恵器」という窯で焼き上げる新たな土器も伝わってきます（約 1,600 年前）。またこのころには床に掘り込む「炉」にかわって造りつけの「かまど」も導入されてきます。なお、三殿台遺跡では「古墳」はみつかりません。



古墳時代土器（土師器）



金環



紡錘車



須恵器（はそう）